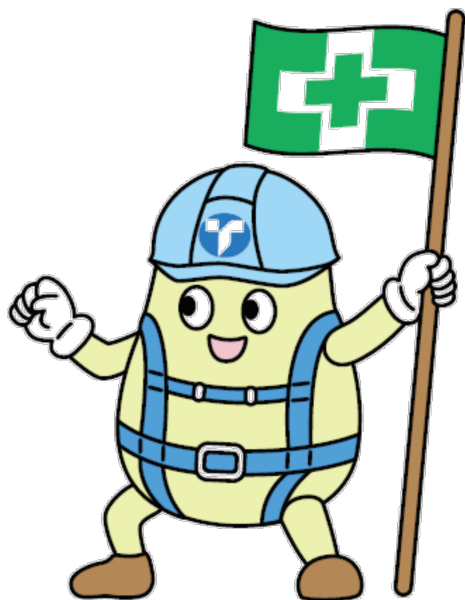


# 送り出し教育資料

—新しい現場でもケガをしないために—

---



2022年 10月 1日改定

東洋建設(株)

# 目 次

1. 1次業者の事業主のみなさんへ
2. 送出し教育がなぜ必要か
3. 作業員のみなさんへ
4. 東洋建設の現場でのルール
5. 安全運転について
6. 事故やケガにあったら
7. 弁当殻や現場から出た不要物は
8. 新規入場時・送り出し等教育実施報告書

# 1. 1次業者の事業主の皆さんへ (現場入場までの流れ)

—新しい現場で作業開始までに「送り出し教育」をお願いします—

## (1) 送り出し教育資料の受取・・・東洋建設と事前打ち合わせ時

- ①「送り出し教育資料」
- ②作業別リスク評価・対策表(東洋建設安全協議会ホームページに掲載)
- ③その他の資料(近隣周辺の状況等)



## (2) 送り出し教育の実施

- ①実施者:1次業者の事業主(雇用管理者、安全衛生責任者、職長等の代行も可)  
※2次以降の事業者については、1次業者が東洋建設から受け取った「送り出し教育資料」に基づき、実施するように指示する。
- ②資料:前記(1)で受け取った資料+作業手順書+その他
- ③対象:新たに東洋建設の現場に送り出す作業員全員  
※期間の長短は関係ありません。1日だけの応援者でも受講が必要です
- ④実施後、東洋建設の職員に「新規入場時・送り出し等教育実施報告書(評価表)」にて実施結果を報告してください。



新規入場

### (3) 新規入場者教育の実施

①実施者：東洋建設の職員又は各協力会社の  
安全衛生責任者・職長で分担

②資料：新規入場者教育資料

③対象：新規に入場する作業員全員

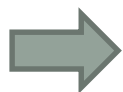


**作業開始**

※応援等で増員の場合も上記に準じて実施・報告

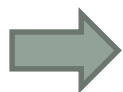
## 2. 送出し教育がなぜ必要か

### 死亡災害の現状



- 年齢・経験に関係なく約60%は入場後1週間以内の作業員に発生している
- 要因の約90%が不安全行動に起因する

### 主な原因



- ベテランでも入場1週間は、注意することが多く注意力が分散・低下する
- 雇用主の教育不足  
(雇入れ時、作業内容変更時・安衛則35条)
- 新規入場時教育は、内容が多すぎて覚えられない。
- 「自分の身は自分で守る」という意識の欠如



### 3. 作業員のみなさんへ

#### (1) 安全活動とは

- ① 毎日ケガや病気をしないで帰宅すること
- ② 無事故で良いものを期日までににつくることです



でも、「建設業の現場は危険の芽で一杯」です

安全活動とは東洋建設と皆さんが一体となって“ケガをしない・させない”ために現場にある危険の芽を根気よく摘み取る活動です。

事故・労働災害ゼロは東洋建設が与えてくれるものではありません。

みなさん自身が築き上げ、勝ち取るものです。

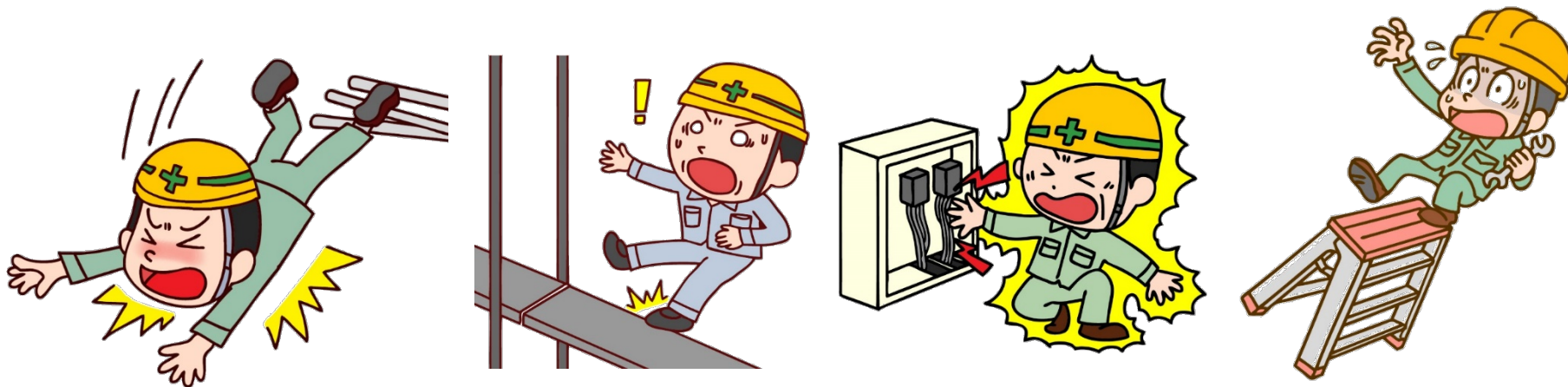
## (2) 安全のルールを守る

東洋建設の現場では、東洋建設の職員を含めて全員が守るルール(決まり)があります。

東洋建設のルールと皆さんの会社のルールが異なっている場合は、東洋建設のルールに従っていただきます

このルールによって全員の安全が保たれています

厳しいようですが、全員の安全を保つため、このルールを守れない方には、現場から退場していただきます



## 4. 東洋建設の現場でのルール

### (1) 挨拶をしましょう

同じ現場で働く仲間です。

「おはよう」

「ありがとう」

「すみません」

「お疲れさま」



がんばろー

お疲れさま



気軽に、元気に  
挨拶しましょう!

おはよう!





## (2) 健康に気を配りましょう

危険の芽がいっぱいあるのが建設業の職場です

体調不良(二日酔い、風邪・・・)だと  
昨日と同じ仕事ができますか？  
自分の回りの危険を見落としていませんか？  
つい、うっかり・・・ルールを無視していませんか？



※体調不良の場合は、早めに職長へ報告してください

### (3) 服装・保護具もキチンと！

作業に適した服装と保護具が災害からあなたを守ります  
保護具は正しく使用しましょう。

#### 保護具・服装標準

- 頭 : 飛来落下物・墜落時保護兼用型  
(ライナーが装着されている)ヘルメットをかぶる  
あごひもはしっかりしめる
- 身体 : やぶれのない清潔な服装を着用  
袖口やズボンの裾はまとめる  
首手拭いはしない
- 手 : 手袋を着用する(使用禁止の作業有り 注意)
- 足 : 安全靴(安全長靴、安全地下足袋)を履く
- その他: 高所作業では安全帯を使用する  
海上作業ではライフジャケットを着用する  
必要に応じ保護メガネ、耳栓、防塵マスク等を使用する



※保護具は着用・使用前に必ず点検しましょう(点検項目はメーカーに問い合わせる)

## (4) 不安全行動をなくしましょう

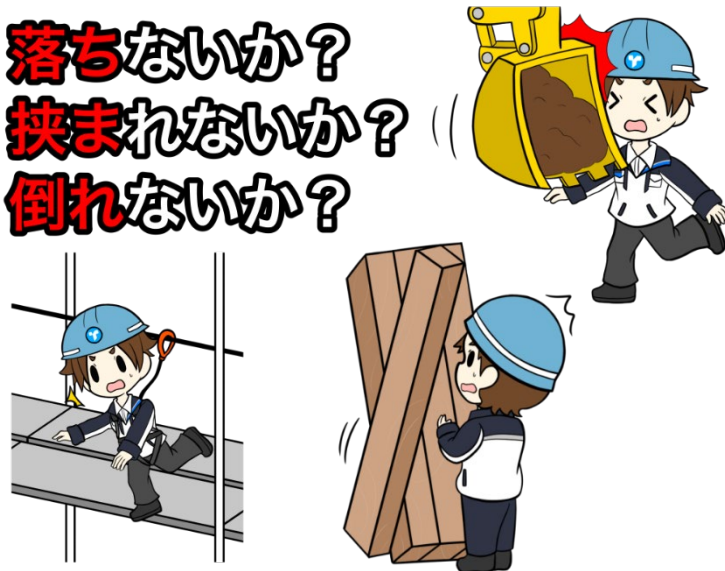
時に誘惑の声が聞こえてきます

「私はベテランだから大丈夫……」

「急いでいるから……」

「このくらいなら……」

**落ち**ないか？  
**挟ま**れないか？  
**倒れ**ないか？



不安全行動をして、どのくらいあなたにメリットありますか？

思い出してください 家族の笑顔を！

チョットのメリットと家族の涙。 はかりにかけますか？

# 建設業の死亡災害の9割は作業員の の不安全行動が原因です！



## (5) 無資格作業は禁止です

資格制度とは？

- 多くの死亡重大災害が発生したため、必要な知識と技能の両方を身につけた人にだけ作業を許可するしくみ
- 作業の危険度により3段階に分かれている
  - 免 許：国が行う試験の合格者
  - 技能講習：登録教習機関が行う講習の修了者
  - 特別教育：事業主が行う教育修了者

簡単に見えても多くの知識と経験が必要な仕事です

※作業によっては資格者の中から特定の個人を指名しています。  
資格者だからといって勝手に作業しないでください。

(例：玉掛け、車両系建設機械の運転、足場組立解体作業主任者等)

Q:これから皆さんがする仕事に必要な資格を知っていますか？

## (6) 作業手順をチェックして安全対策を話し合いましょう

### ●昔から「段取り八分」と言います

安全に早く、良い仕事をするには、仕事の前に、「方法、順序、役割、予想される災害とその対策」の確認が不可欠です。これを書いたものが「作業手順書」です。

●特に安全のことを言えばどんな時に、どれくらい危ないかを考えて、対策は少しぐらいウツカリ、ボンヤリしても大丈夫な対策(設備)をする事が大切です。



重 い



軽 い



よく起こる



あまり起きない

## ●最近こんな考えでやってます→**リスクアセスメント**

1)ケガは骨折などの大ケガと、例えば転んでひざをすりむいたというような小さいケガがあります。「ケガには大きさがある」

2)また、家庭内であれば階段から落ちてケガをするようなよく起きるケガと、最近ではあまり起きない感電のケガがあります。「ケガにより確率が違う」

3)ところで、現場ではたくさんの危険があります。その予想される危険が本当に発生した場合のことを考えれば、大きなケガやよく起きるものについては優先的に対策を十分にしておく必要があります。

4)この考え方をリスクアセスメントと言います。リスクアセスメントをもとに作業手順が作られています。

5)今日お願いしたいことは、今度、新しく入場する東洋建設の現場での作業手順について、特に「予想される災害」「対策」について一人ひとりよくチェックして、よく打ち合わせしてください。



## (7) 作業手順を守りましょう

●現場では「作業手順」を守りましょう

●毎日の作業前にも手順の確認をしましょう。日々、現場（人も場所も周囲の状況も・・・）は変化します

●作業中、手順に不具合が生じたら、必ず一旦作業を中止して、検討・処置してから再開しましょう



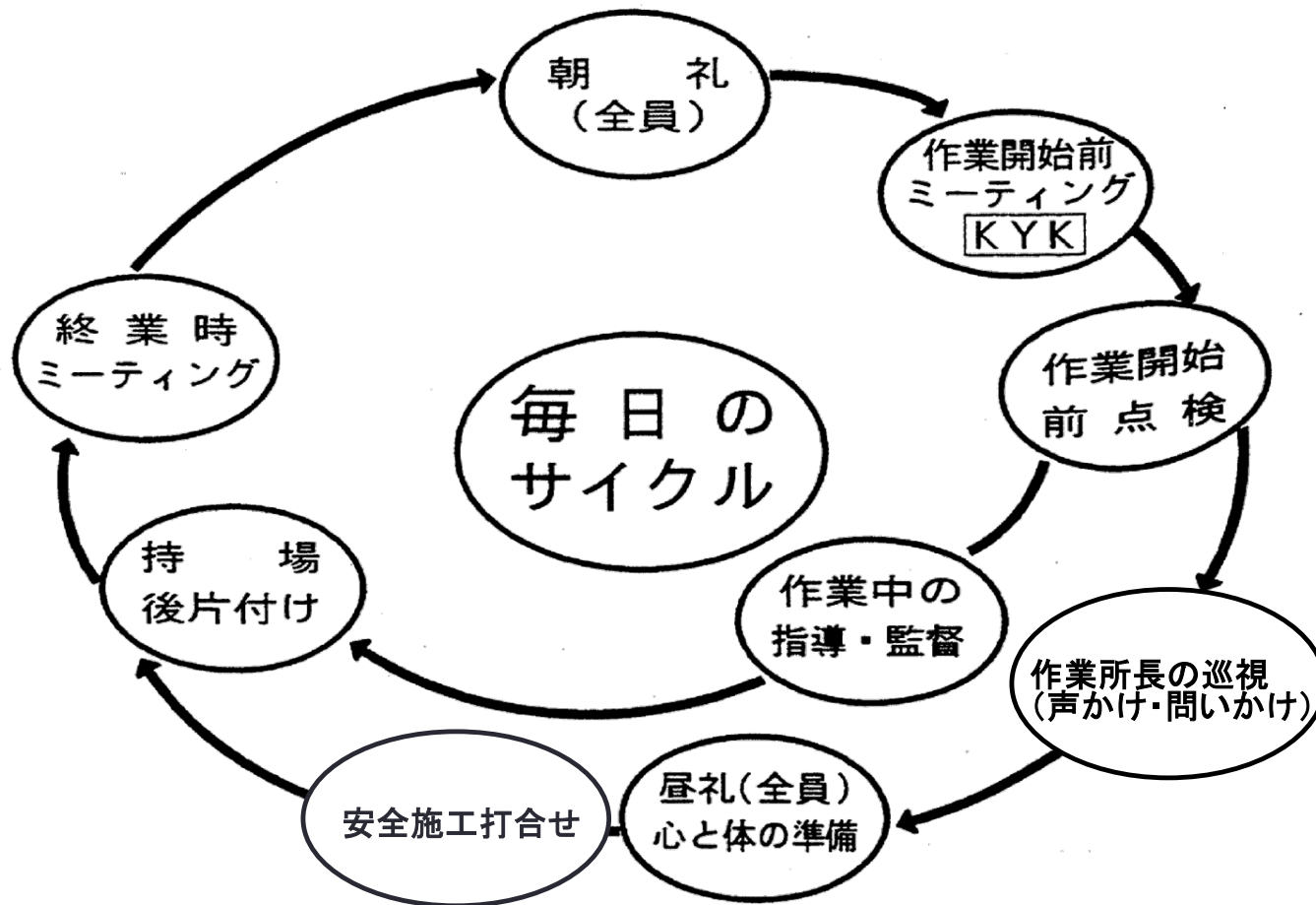
作業区分	作業の手順	危険有害要因	重大性	可能性	評価点	危険度	除去・低減策（防止対策）	誰が
玉 掛 け 作		玉掛用具の未整備	2	2	4	C	作業開始前に玉掛用具を点検 不備、不良品は廃棄処分	玉掛者 職 長
		玉掛方法の不適切	2	2	4	C	作業開始前に吊り荷に合った玉掛方法を決定 適切な玉掛用具を選定	玉掛者
		作業区域に立ち入る	2	2	4	C	作業半径外の安全な場所に退避する	作業員
							退避を確認後、作業に掛かる 同僚への笛、マイクでの注意	玉掛者
		吊り荷が振れて激突する、挟まれる	3	3	6	A	吊り荷の真上にフックを誘導する	玉掛者
							地切り後一旦停止し吊り荷の安定を確認 不安定な時は掛け直す	
							介錯ロープを使用する	
		吊り荷の落下	3	3	6	A	吊り荷は堅固に固定する	玉掛者
							吊り荷に合った玉掛用具を使用（ワイヤーモック） 重量にあった規格の物を使用する	
		吊り荷の荷振れ	2	1	3	D	正しい玉掛と確実な合図	玉掛者
							吊荷の下に入らない・入らせない	作業員・職長
							相互間の注意	作業員
							吊り荷は安全な場所に下ろす	玉掛者

※資料（作業手順書）はあなたの職長からもらってください。

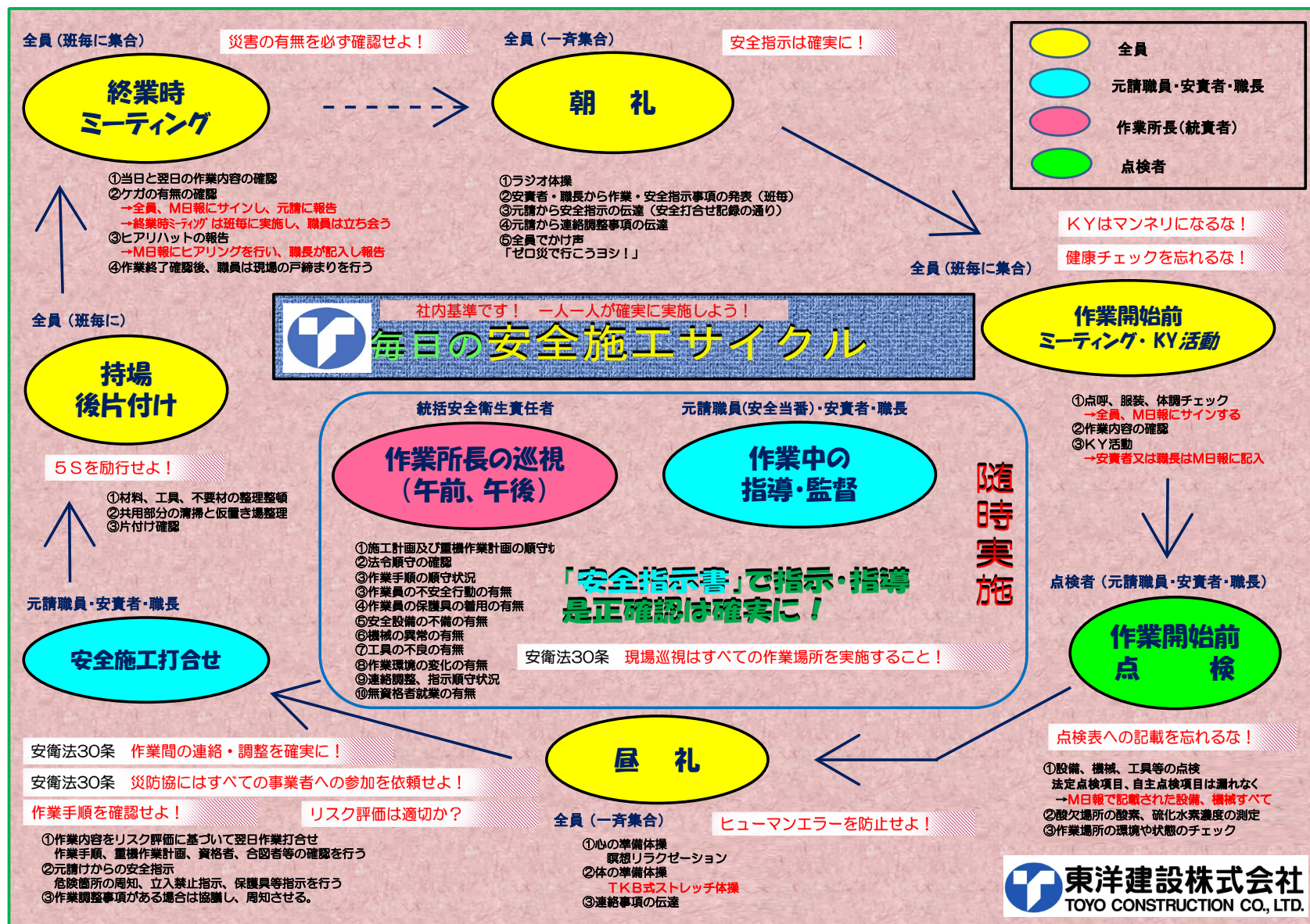


(8)「東洋安全施工サイクル」 ●全員参加で  
「東洋安全施工サイクル」を回しましょう

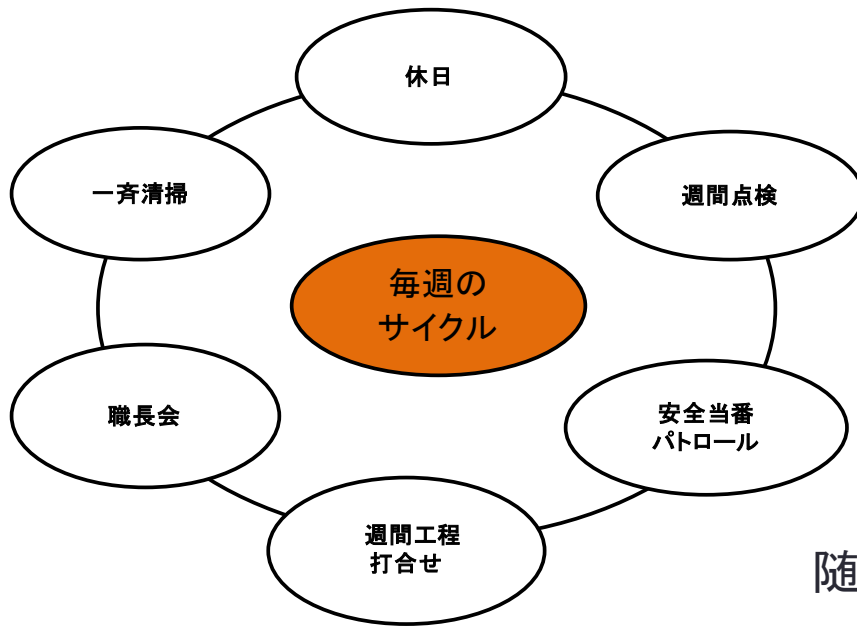
毎日のサイクル



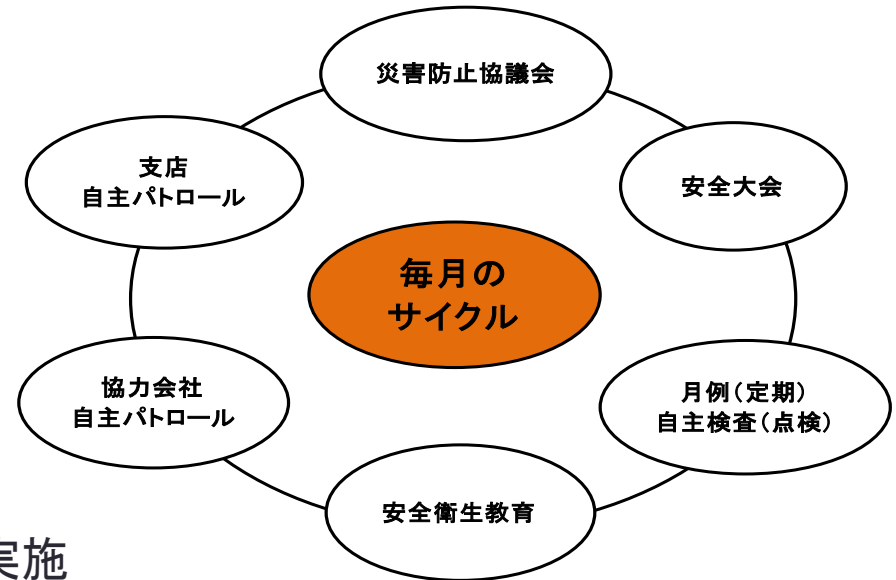
## 毎日のサイクル詳細



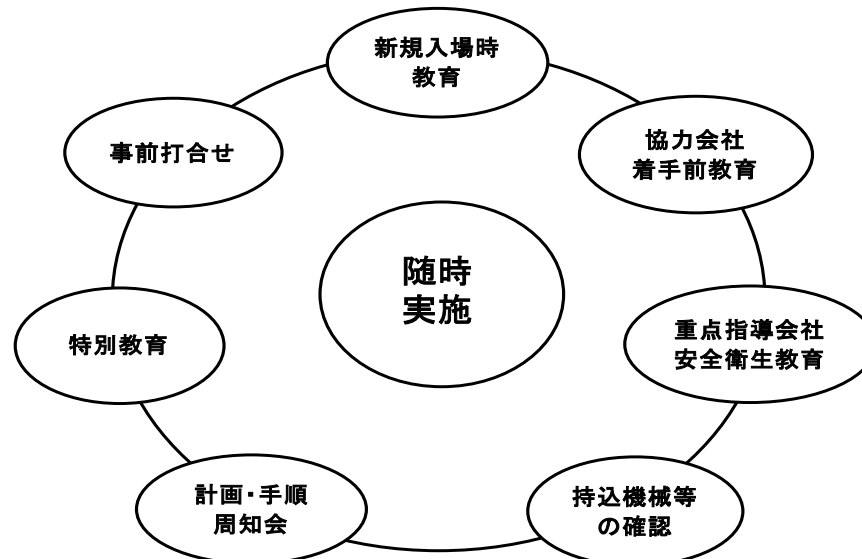
## 毎週のサイクル



## 毎月のサイクル



## 随時実施



# 「東洋安全施工サイクル」の3つの特長

## ①昼礼

昼休みと午後からの仕事の区切りをつける  
(瞑想リラクゼーション、TKB式ストレッチ等)

## ②終業時ミーティング

「ヒヤリハット」「事故や災害」「作業手順の不具合」等の有無を確認する。

### ●ヒヤリハットとは？

作業中にヒヤットした、ハットした経験

### ●なぜ、報告するの？

災害と同じです、運良く、ケガがなかっただけです。

報告により必要な対策・改善ができます。

報告がないと いつか 誰かが同じ要因で大ケガをします。

次はあなたかも？

### ●なぜ、報告されないのか？

ヒヤリハットの重要性が分からない

報告するのが、「はずかしい」「面倒だ」

報告すると、「怒られる」

### ●いつ、報告するの？

経験したらすぐに！「遅くても終了時ミーティング時まで」

### ③危険予知活動(落ちないか？はさまれないか？倒れないか？その他ないか？)

#### <効果(目的)>

1) 作業前に、危険の芽を摘み取ることができます。

Q: 毎日同じ作業でも必要なの？

A: はい、「天候、他社との出会い、あなたの体調、貴方の心の変化…」毎日変化しています。摘み取る危険の芽も毎日変わります。

2) 感受性(危険を危険と感ずる感覚)を鋭くしてくれます。

高い足場での作業、最初は怖かったのに今では…

これは、感受性がマヒしているからです。

危険を災害で考えることにより、感受性がよみがえります。

3) 集中力を高めてくれます。

まじめな貴方、仕事に熱中して回りの危険が…

ウッカリ、ボンヤリ、不注意は不安全行動要因です。

作業の要所要所の指差し呼称がヒューマンエラーを未然に防ぎます。

4) 実践への意欲を強めてくれます。

自ら発言することにより災害防止への意欲を高めます。

5) それでは、現場を見ながら「4つの問いかけ」を実施しましょう。



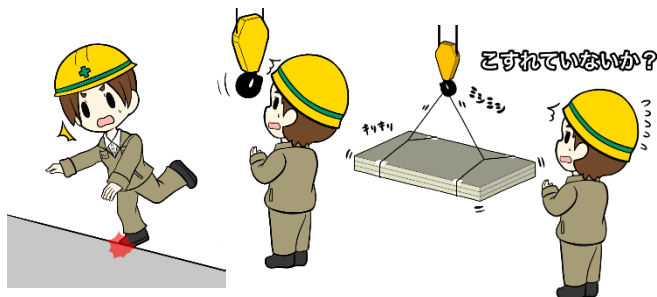


# 「4つの問いかけ」運動

①作業前ミーティングで役割分担を決めます。



④するとたくさんの危険が...

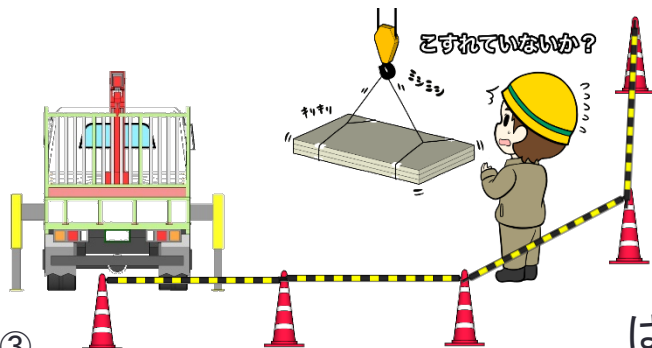


⑥先ほど思い浮かべた危険を発表します。



②

1. 私(玉掛け者)の動線
2. 吊荷の動線
3. 私と吊荷の動線の交点
4. 危険区域



⑤職長は無差別に指名して発表してもらいます。

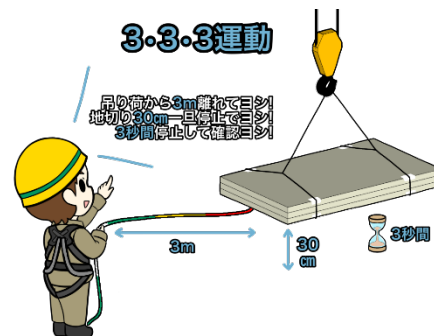


- ・地切り時に吊荷が振れる。
- ・吊荷が振れて挟まれる。
- ・ワイヤーが切れて吊荷が落下する。
- ・クレーンが転倒する。



⑧危険のポイントを一つに絞る。

**3・3・3運動**



③動線の交点、危険区域について、自分の作業行動を思い浮かべ、「落ちないか?」、「はさまれないか?」など、チェック項目を使って自問自答します。



落ちないか?  
はさまれないか?



倒れないか?  
その他ないか?

⑨一つに絞った危険のポイントの対策と指差し呼称項目(ワンポイント)を話し合ってくる。

# 5. 安全運転について

## <一般的注意事項>

### 1 安全速度を守る

- ①道路・交通状況、天候、視界、車両の状況（積み荷の状況など）に応じた安全速度（制限速度以下）を意識し、他の車と競争せず自分のペースで走行しましょう。
- ②スピードが上がれば上がるほど、視野が狭まり、確認できる範囲が極めて狭くなるので、安全速度で運行できる計画を立てましょう。

### 2 急加速、急減速はしない

- ①急加速、急減速はしないようにしましょう。
- ②道路・交通状況に応じた安全な加速、減速を行いましょう。

### 3 運転に集中する

- ①雑談や他のことに気をとられてわき見（認知遅れ）にならないように注意しましょう。
  - ・地理が不案内で、地図、案内標識や道などに気をとられる。
  - ・進行する道路の周囲の事物、情景に興味を奪われる。
  - ・同乗者と夢中で話す。
  - ・考え事をする。
- ②飲食・喫煙・ガラス拭き・カーラジオの操作といった運転に関係のない行為は、運転中には絶対に行わないようにし、場所・タイミングを見計らって、必ず、車両が停止している状態で行いましょう。

## 4 あせり、イライラは禁物

①先を急いで、あせって運転をしても、時間的にはさほど大きな差はありません。

交通ルール厳守は当然のこと、頻繁な車線変更など自己中心的な運転はやめましょう。

②運転中のイライラは事故のもとです。常に譲り合いの精神、弱者保護の気持ちを忘れずに、落ち着いた気持ちで運転しましょう。

## 5 眠くなったら早めに休憩

①運転中に眠くなったら、無理せずに、早めに車を安全な場所に止め、軽い体操で気分転換をしましょう。

②それでも眠気がとれない時は、近くの駐・停車場などで仮眠をとりましょう。



# <運転操作のポイント>

## 1 正しいハンドル操作

- ①急ハンドル操作はしないようにしましょう。
- ②片手ハンドルなど、安全運転操作に支障をきたす行為はしないようにしましょう。

## 2 ブレーキ操作

- ①急ブレーキを使用しなくてもよい運転を心がけましょう。
- ②ブレーキは早めに安全にかけるなど、ゆとりのあるブレーキ操作に努めましょう。
- ③長い下り坂や高速道路でのブレーキの多用は、過熱して効きが悪くなるので注意しましょう。
- ④下り坂では、重心点がずっと前に移動してくるので、急な坂になるほど前車輪だけで走行している感じになります。このような状態でブレーキを踏むと、後輪はロックされやすくなり、危険な状態となりますので、スピードは控えめにして、ブレーキに注意しましょう。

# <運行前のポイント>

## 1 健康管理

①健康は、毎日の安全運転、業務の遂行に大きな影響を及ぼします。日頃から食事・睡眠・休養などに気を配り、気分転換を心がけ、心身のバランスを保ち、いつも良いコンディションで仕事できるよう心がけましょう。

②定期的に健康診断を行いましょう。高血圧・低血圧・貧血・心臓疾患などの症状がある場合は、定期診断以外にも、適時、医師の診断を受けましょう。

## 2 整理整頓

①運行中に物が移動しないように、運転席付近はなるべく余計な物を置かないよう整理整頓を行いましょう。

②前方が見にくならないように、窓にシールなどを貼ったり、ダッシュボードにマスコットなどを置いたりしないようにしましょう。

## <発進時のポイント>

### 1 直進時の安全確認

- ①子供や老人などが思わぬところにいることがあるので、乗車するときには、前後・左右、特に車の下部に人がいないことをよく確認しましょう。
- ②発進時も、バックミラーなどにより、前後・左右の安全をよく確認し、方向指示器で合図をしてからスタートしましょう。必要に応じ警音器を鳴らしましょう。
- ③夜間や雨天などの場合は、特に慎重に発進しましょう。
- ④バス停、交差点、横断歩道の近くでは、特に歩行者に注意しましょう。
- ⑤発信直後に右・左折するときは、直前の横断者に注意しましょう。

### 2 バック時の安全確認

- ①常にバックしないですむような運行ルートを心がけ、原則、バックでの走行はやめましょう。
- ②バックをする場合でも、すぐバックをせず後方をよく確認してから、ゆっくり後退しましょう。

# <走行時のポイント>

## 1 車間距離

あわててブレーキを踏んでも車はすぐに停まりません。常に速度に応じた安全な車間距離を保ちましょう。

特に次のような場合には注意が必要です。

- ・前方の見通しがきかないとき。
- ・悪天候で視界がわるいとき。また、雨・雪・凍結でスリップするとき。
- ・タクシー、初心者マーク、他府県ナンバーの車の後ろにつくとき。

## 2 徐行

次のような場合には必ず徐行して、よく安全確認をしましょう。

- ・左右の見通しがきかない交差点
- ・道路の曲がり角付近
- ・上り坂の頂上付近
- ・勾配の急な下り坂
- ・歩行者などの片側通過のときに、安全な間隔がとれないとき
- ・乗客や幼児などの乗り降りのための停車中バスの側方を通過するとき
- ・交差点で左折、右折するとき
- ・ぬかるみ、または水たまりの場所を通行するとき

### 3 行き違い

- ①道路の幅、交通状況などに応じて減速、徐行をおこないましょう。
- ②未舗装の道路では原則として路肩に乗り入れないようにし、やむを得ずそういった路肩など危険箇所で行き違いをするときは、スリップや転落をしないよう、一時停止をして、必ず安全を十分に確認しましょう。

### 4 追い越し

- ①追い越しには常に危険がともないますので、対向車及び前車、その前方の状況、歩行者の現状などの安全を十分に確認しましょう。
- ②追い越し禁止場所でないことを確認しましょう。
- ③見通しの悪い道路や狭い箇所での追い越しはしないようにしましょう。
- ④無理な追い越し、感情的な追い越しは絶対にしないようにしましょう。
- ⑤追い越しする場合は、追い越し前・後の合図を早めに行いましょう。
- ⑥二輪車・自転車の追い越しは、風圧で相手が倒れ込むことがありますので、特に注意し、大きく間をあけて追い越しましょう。

## 5 駐停車

できるだけ坂道での駐車は避けましょう。

駐停車している他の車の周辺を走行する際は、十分に注意しましょう。

- ・方向指示器での合図なく、突然発進することがある
- ・突然、車のドアが開くことがある
- ・車の陰から子供が飛び出すことがある

## 6 交差点

交差点は最も事故が起こりやすい場所です。他の車と接触したり、二輪車や歩行者などを巻き込んだりしないよう、交差点に入るときは、速度を落として、周囲の安全に細心の注意をはらいましょう。

### (1) 信号のある交差点

- ①信号は遠方から早めに確認しましょう。
- ②信号の変化を予測した無理な通過はしないようにしましょう。
- ③停止するときは、一度軽めにブレーキを踏み、後続車にあらかじめ知らせってから、ブレーキ操作を行うなど、急ブレーキはかけないようにしましょう。
- ④停止するときは、前車との車間距離をしっかりと確保しましょう。
- ⑤左右から信号の変わり目に無理をして通過しようとする車や歩行者が飛び出してくる場合があるので、信号が変わって発進するときも、急発進はせず、交差点などの安全をよく確認してからゆっくり発進するようにしましょう。

## (2)信号のない交差点

- ①人間の目は瞬間視では正確に物を認識することはできないと言われています。  
しっかり安全を確認するには、まずはきちんと停まるところが必要です。  
信号のない見通しのきかない交差点では、まずしっかりと徐行し、停止線で完全に車両を停止させましょう。そして、安全を確認してから少し前進し、交差点手前の角で二次停止、左右を良く見て、もう一度安全を確認してから発車しましょう。
- ②自転車と他車との優先順位にこだわらず、ゆずり合う気持ちで通行しましょう。

## (3)右折・左折する場合

- ①早めに進路変更、右・左折の合図を行っておきましょう。
- ②横断歩道を通過するときは、左右・直前の横断者の安全を確認しましょう。
- ③ 暗い交差点では、特に歩行者や自転車などがいないかよく注意しましょう。
- ④右折するときは、対向車の速度や距離を正確に把握し、無理な通過はしないようにしましょう。  
対向車の影から直進してくる二輪車には特に注意しましょう。
- ⑤左折の際は、巻き込み事故を防止するために、自転車の左折付近などを先行させた後に左折しましょう。また、左折を完了するまで肉眼やミラーによって確認し、最徐行しましょう。

## 7 カーブ

- ①カーブに入る前の直線部分で早めにブレーキをかけ、十分に速度を落としましょう。
- ②カーブでは、急加速、急ハンドルはしないようにしましょう。
- ③曲がり角やカーブでは、道路の中央からはみ出さないようにしましょう。  
また、対向車側が道路中央からはみ出してくることもあるので注意しましょう。
- ④道路の曲がり角や、カーブを通過するときは、車の内輪差のため、内側にいる歩行者や自転車などを巻き込んだり、後車輪が路肩からはみ出したりすることがないように十分に注意しましょう。  
カーブに入る前の直線部分で早めにブレーキをかけ、十分に速度を落としましょう。

## 8 坂道

- ①車線を守り、特にカーブでのカッティング走行はやめましょう。
- ②坂道を登降するときは、その直前でなるべくブレーキの作用を確認しましょう。
- ③下り坂ではエンジンブレーキを使用しましょう。

## 9 危険な現象

### ① **ハイドロプレーニング現象**

- ・路面が水で覆われた道路を高速で走行していると、タイヤと路面の間に水の層ができ、その上を車が水上スキーのように滑走することがあります。これを『ハイドロプレーニング現象』といいます。このような状態になると、ハンドルもブレーキも効かなくなりますから、スピードは抑えて走行する必要があります。



## ②フェード現象とベーパー・ロック現象

- ・下り坂などでフットブレーキを使い過ぎると、ブレーキライニングが過熱して摩擦力が低下し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。これを『フェード現象』といいます。
- ・フットブレーキの使い過ぎでブレーキフルードが沸騰し液内に気泡が生じて、ブレーキが効かなくなってしまう現象を『ベーパー・ロック現象』といいます。
- ・下り坂では、エンジンブレーキを活用し、フットブレーキは必要に応じて補助的に使用するようにしましょう。

## 10 踏切

- ①踏切の手前では必ず一時停止し、左右及び前方の安全を確認しましょう。
- ②複線区間にある踏切では、列車が通過しても反対方向からの列車にも注意しましょう。
- ③踏切に入るときは、踏切内に自車が残らないよう、踏切の向こう側に十分なスペースを確認してから車を進めましょう。
- ④踏切内では変速操作を行わず、低速ギアで一気にわたりましょう。
- ⑤踏切内で車両が動かなくなった場合は、すぐに非常警報装置のボタンを押し、信号炎管・赤旗などで合図をおくり、列車を停止させる装置をとりましょう。

## 11 トンネル

- ①強風るとき、トンネル・切り通しの出口では、速度を落として横風に注意して走行しましょう。
- ②夜間走行時に、トンネルに入る前やトンネルから出るときは、速度を落として走行しましょう。(明・暗順応)

# ＜悪条件下での運転のポイント＞

## 1 夜間

- ①夕方になったら、まだ薄暗いうちに早めに点灯しましょう。
- ②夜間に、歩行者とのすれ違いや側方を通過するときは、注意して安全を確認しましょう。
- ③対向車とすれ違うときは、対向車のライトを直視しないよう注意しましょう。
- ④対向車があるときや他車に追従するときは、ライトを必ず下向きにしましょう。
- ⑤交差点や曲がり角の直前では、ライトを必ず下向きにしましょう。
- ⑥夜間は、対向車のライトと自車のライトの間に歩行者が立ち止ってしまうと一瞬見えなくなる現象（蒸発現象）が起こる場合がありますので、なるべく中央線寄りの走行を避け、走行する場合でも必ず徐行などにより、前方の安全を確認しながら走行するようにしましょう。
- ⑦街路灯がまばらに立っている道路は、光の谷間となり、薄暗い部分が十分に確認できないことがあるので注意しましょう。
- ⑧夜間は自転車に対して特に注意しましょう。

## 2 悪天候

- ①雨天、積雪、凍結時には、ブレーキの停止距離が乾燥路面より長くなりますので、普段よりも速度を落とし、車間距離も十分に確保しましょう。
- ②悪天候で道路状態が悪いと思われるときや、交通が混雑しそうな道路を運行する場合、ラジオ、電話、その他によりの確な情報を収集し、道路交通の状況を確認しましょう。

## 3 雨天

- ①雨天のときはスリップが起きやすいので、急発進、急ハンドル、急ブレーキ、無理な追い越しなどは横転や横滑りの原因になるので注意しましょう。雨の降り始めは特に注意しましょう。
- ②雨天及び雨天後は、地盤が緩んでいるので路肩に寄りすぎないように注意しましょう。
- ③雨天時は、傘をさした人の飛び出しや、二輪車・自転車に注意しましょう。

## 4 雪道

- ①積雪、凍結時にはタイヤチェーンを装着し、速度を十分に落として走行しましょう。
- ②雪道では、他の車の通った跡を走行し、スピードを一段と落として一定の速度で走行しましょう。
- ③雪道でのハンドルやブレーキの操作は、横滑りを起こしやすいので、安全速度で慎重に走行しましょう。

## 5 霧

霧が発生したときは、フォグランプ又はヘッドライトを点灯し、センターライン、ガードレール、前車のテールランプを目安にして、安全な速度で走行しましょう。

## 6 強風

強風の日は、ハンドルを取られないようにしっかりとハンドルを持って運転しましょう。

## 7 地震

- ①地震が発生したら、左に寄せて車を止め、ラジオの情報を聞きましょう。
- ②避難が必要になったらエンジンを切り、キーはつけたまま、すみやかに避難しましょう。

# <歩行者、二輪車・自転車に対する安全運転のポイント>

## 1 歩行者

### (1) 路上における注意事項

- ①歩行者などの側方を通過するときは、歩行者などを回避できる速度と間隔を確保し、必要に応じて減速徐行をしましょう。
- ②狭い道路、混雑している場所を走行するときは、歩行者の飛び出しに注意し、徐行又は一時停止を行いましょう。
- ③反対側の歩道などに歩行者がいるときは、こちら側に渡ろうとしていないか、その動向に注意しましょう。
- ④狭い歩道や足元の悪い歩道の側方を通過するときは、歩行者の転倒などに注意しましょう。
- ⑤停止している車のそばを通るときは、車の陰から人が飛び出してくる場合があるので注意しましょう。
- ⑥ぬかるみや水たまりのあるところでは、泥や水をはねて他人に迷惑をかけないように徐行するなどの注意をして通りましょう。

## (2)横断歩道付近における注意事項

- ①横断歩道を通過するときは、手前で一時停止するなどして、左右の安全を確認し、安全な速度で通過しましょう。
- ②最終の歩行者が横断歩道を駆け抜けることを予想し、余裕を持って安全を確認しましょう。
- ③横断歩道の手前に停止車両があるときは、歩行者の飛び出しなどに注意しましょう。

## 2 二輪車・自転車

次のような場合には、特に注意しましょう。

- ・特に女性、子供、老人が運転しているとき。
- ・くぼみ、水たまりを避けながら、進行しているとき。
- ・横に二台並んで進行しているとき。
- ・幼児を乗せて路上に停めているとき。
- ・雨天降雪時(前方に確認しないで運転している場合がある)

# ＜事故発生時の措置＞

## 1 事故現場での措置

交通事故を起こした場合、ただちに車両の運転を停止し、次の措置をとる必要があります。

- ①死傷者があるときは、ただちに応急救護措置をとる。
- ②事故車両が後続事故を起こすおそれがある時は、現場の状況を確認したうえで安全な場所に移動させる。
- ③警察に通報するとともに、安全運転管理者に連絡し指示を受ける。
- ④事故の相手方を確認する。(氏名・年齢・相手車のナンバー、連絡先等)  
※事故現場で相手方と示談に関する交渉はしないこと。
- ⑤目撃者を確認する。(氏名や連絡先等)

## 2 高速道路での事故の場合

高速道路の場合は、死傷者があるときは、ただちに応急救護措置をとるとともに、上記の他、次の処置をとります。

- ①停止表示器材を後方から見やすい位置に置き、後続事故の防止を図る。
- ②非常電話で交通管制室に事故の通報をする。
- ③待機するときは、必ずガードレール等の外側に出る。

## 6. 事故やケガにあったら

### (1) “事故やケガ”をみたら

- ①あわてずに被災者の救助を第一に行う。
- ②次に「いつ、どこで、何が起きたか」など、わかる範囲をまず東洋建設の職員に報告する
- ③指示に従う。

### (2) “ケガ”をしたら

- ①すぐに職長や東洋建設の職員に知らせ、その指示に従う。
- ②どんな小さな“ケガ”でも隠さない。
- ③素人の手当てですまない
- ④医師の診療を受け、その指示に従う。

**⑤労災請求について不明な点は、事業主及び元請職員に説明を受けてください。**

### (3) こんなことも東洋建設の職員に報告してください

- ①近所の人が苦情を言ってきた時
- ②電線や電話線を切ってしまった時
- ③地中の水道管や交通事故を起こした時
- ④通勤途中等で交通事故を起こした時
- ⑤その他、油が浮いているなど異常を発見した時





# 7. 弁当殻や現場から出た不要物は

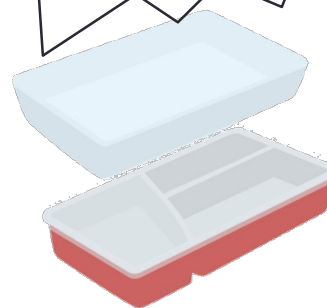
(一般廃棄物と産業廃棄物とリサイクル品の分別)

キッチンと分別して、資源を有効利用しましょう

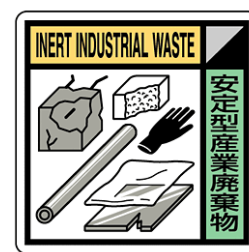
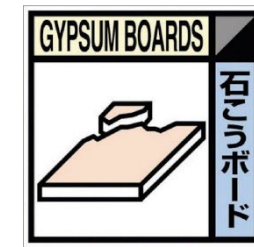
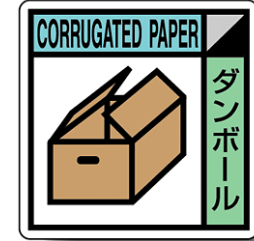
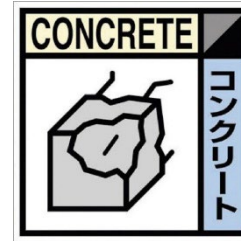
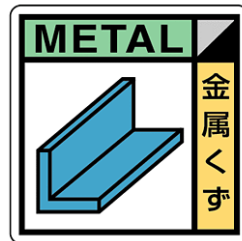
雑誌や新聞は、リサイクル  
しましょう



弁当ガラは、現場から  
持ち帰ってください。



## 建設系産業廃棄物リサイクルの分別



その他分別できない不要物

# 新規入場時 **送出し等教育**実施報告書（評価表）

元 請 確認欄	
------------	--

年 月 日

事業所の名称  作業所

所 長 名  殿

会 社 名

(  次)

安全衛生責任者

送り出し教育を実施しましたら、  
実施報告書を現場職員に提出してください。

項 目	摘 要
教 育 の 種 類	新規入場時 ・ 送出し ・ 雇入時 ・ 作業変更時 （該当するものに○印）
実 施 日 時	<input type="text"/> 年 <input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日 <input type="text"/> 時 ～ <input type="text"/> 時 （ <input type="text"/> 時間）
実 施 場 所	<input type="text"/>
教 育 方 法	<input type="text"/>
教 育 内 容	<input type="text"/>
講 師	<input type="text"/>
受 講 者 氏 名  (受講者に氏名を 自筆させること)	<input type="text"/>
	<input type="text"/>
	<input type="text"/>
	<input type="text"/>
	<input type="text"/>
	<input type="text"/>
資 料	※資料を添付すること <input type="text"/>
教育の有効性の評価 (教育実施1週間経過後、教 育実施者が評価する)	<input type="text"/>